

感じとり，体験して，生きる力が育つ授業づくり  
～食領域を通して～

I 研究の内容

1 視覚教材の開発（ハンバーグの生地を発展させて）

昨年度は，授業の中で実習手順や実習方法を伝えるために，小学校においては「野菜の切り方，ゆで方」，中学校においては「ハンバーグステーキの作り方」の実習カード（ラミネート加工）の作成を行った。今年度はハンバーグの生地から調理できる身近なメニュー4種類を取り上げ，昨年同様，実習，撮影，印刷，ラミネート加工をし，さらに発展させた視覚教材に取り組んだ。

授業で学習したことが日常生活の中で生かされてこそ本教科の成果と考えており，日々の授業で大いに利用していきたいと思う。

ハンバーグ生地の応用（ラミネート加工 実習カード作成）

☆ピーマンの肉詰め

《ハンバーグステーキ生地》  
↓  
①縦切りのピーマンに1 2等分した生地を詰める。  
②フライパンに油を熱し，生地側を強火2分，裏を弱火5～6分蓋をして焼く。

☆肉団子

《ハンバーグステーキ生地》  
↓  
①直径2～3cmくらいに丸め，片栗粉をまぶして揚げる。  
②たれにからませ盛りつける。

☆メンチカツ

《ハンバーグステーキ生地》  
↓  
①6等分にし，楕円形に形を作る。  
②粉，卵，パン粉の順につけて揚げる。

☆ミートソース

《ハンバーグステーキ生地》  
↓  
油を熱したフライパンで炒め，水，トマトピューレ，固形スープの素を入れ，塩，コショウ，ソースで味を調え，15分ほど煮込む。

2 授業実践（山梨南中学校 古屋奈穂子教諭）

衣生活の授業において，生徒自らTPOに合わせた衣服の選択，手入れの方法などに積極的に取り組ませたいと考えている。

本授業ではニヒドリン実験を通して，目に見えない汗，垢，皮脂などの汚れを視覚を通して認識させ，衣服を清潔に着用するための方法や，下着をつけることの必要性についても理解させることができた。

(1) 本時の授業

- ・題材名 「綿とポリエステル」の布の性質」
- ・目標 綿とポリエステルの性質を知り、衣服を清潔に着用するための方法を考える。
- ・展開

	学習活動	教師の支援	評価方法
導 入	*天然繊維と化学繊維を思い出す。 ・綿とポリエステルの繊維の特徴を発表	*原料と繊維の写真を提示する。	
展 開	*綿とポリエステルの違いを実験を通して学習することを知る。 *実験の説明を聞く。 ①布の様子を観察する。 ・見た目 ・触った感じ ②吸湿性を調べる。 ・代表者の片手に綿、ポリエステルを巻きビニール袋をかぶせ、輪ゴムで手首を止める。素手にビニールを巻いた状態も実験する。(5分間) →ビニール内の様子を観察し、プリントに記入。	*2枚の布を提示する。  *板書、プリントで説明。  *全班が同じ歩調になるよう支援する。	観察   観察 プリント

(2) 授業後の反省

- ・目で見て、汗、皮脂反応が紫色に現れ、驚きが大きく下着の必要性が再確認できた。
- ・資料、実験準備が周到で、生徒たちにも参観している側にも大変わかりやすかった。
- ・保健教育ともタイアップして指導できる教材であるので、養護教諭との連携も考えられる。

II 成果と課題

1 成果

- ・実習シート…基本を発展させた日常につながる視覚教材が製作できた。
- ・授業実践…実験反応が顕著に現れるので衣服の役割を確認する上でも大変有効。

2 課題

製作した教材を有効に利用し生きる力につなげていくための授業づくり。

III 成果物

- ・実習シート (ハンバーグ基本生地応用) ・指導案「綿とポリエステルの布の性質」